

住宅火災から大切な命を守ろう

令和2年中の火災による死者76人のうち、9割以上の71人が住宅火災で亡くなっています。住宅火災において死者が発生した主な出火原因は、「たばこ、ストーブ、こんろ」です。火災から大切な命と住まいを守るために、日頃からしっかりと備えましょう！


死者が発生した
住宅火災の主な出火原因
身近なところから火災が発生しています



たばこによる火災

たばこによる火災を防ぐには…


- 寝たばこは絶対にしない。
- 飲酒→喫煙→うたた寝に注意する。
- 吸殻を灰皿にためない。
- 吸殻は水で完全に消してから捨てる。
- 火種を落とさないよう安全な場所で喫煙する。



ストーブによる火災

ストーブによる火災を防ぐには…


- 周囲に燃えやすいものを置かない。
- 外出時や就寝時は必ず消す。
- 給油は必ず消してから行う。
- ストーブの近くで洗濯物を乾かさない。



こんろによる火災

こんろによる火災を防ぐには…


- 調理中に離れない。
- 周囲に燃えやすいものを置かない。
- 防災品のエプロンやアームカバーを使用する。
- 火が鍋底からはみ出さないよう調節する。
- 安全機能(Siセンサー)付きこんろを使用する。



お気軽にご相談ください！
住まいの防火防災診断

高齢者や障害者の方など、災害時に支援が必要な方のお宅を消防職員が訪問し、「火災」「地震」「日常生活事故」などの危険性についてのアドバイスを無料で行っていきます。診断の所要時間は約30分です。最寄りの消防署まで、お気軽にご相談・お問合せください。

診断項目の一例
【火災】暖房器具やガスコンロなどの使用状況、住宅用火災警報器の設置・維持管理状況など
【地震】家具類の転倒・落下・移動防止対策など
【日常生活事故】階段、床等の転倒危険箇所の状況、浴室内事故の危険性など



住宅用火災警報器の設置で住宅火災の被害を軽減！

住宅用火災警報器(住警器)は、煙や熱を感知し、警報音などで火災の発生を知らせてくれます。住警器を設置することで火災を早期に見出し、速やかな通報や消火・避難が可能となり、被害を防止・軽減することができます。


東京都の火災予防条例により、住宅の全ての居室・台所・階段に設置することが義務付けられています。

住宅火災1件あたりの平均焼損床面積
住警器等未設置 14.1㎡
住警器等設置済 3.6㎡
約 $\frac{1}{4}$

住宅火災100件あたりの死者発生件数
住警器等未設置 8.5件
住警器等設置済 2.9件
約 $\frac{1}{3}$

※住警器等とは、住警器の他に自動火災報知設備などの設備を含みます。
※令和2年中

事例の紹介 | 初期消火成功
寝室で電気ストーブのスイッチを入れたまま寝てしまい、その後掛け布団が電気ストーブに接触して火災に。寝室に設置してある住警器の警報音で目が覚め、初期消火を実施し、119番通報しました。



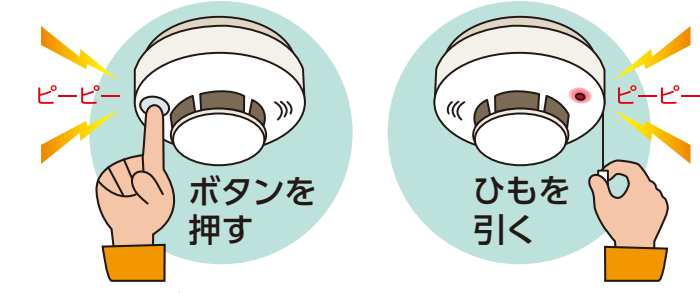
住警器は、定期的な点検と設置が10年を目安に本体交換を！

「いざ」というときにきちんと作動するように、日頃からお手入れや点検をしましょう。また、古くなると電子部品の劣化や電池切れなどにより火災を感知しなくなることがあります。設置から10年を目安に本体の交換をしましょう！

◆点検の方法：本体のボタンを押すか、付属のひもを引く

<正常な場合>
正常を知らせる音声や警報音が鳴ります。
※一般的に点検の際の警報音などは自動で止まります。

<音が鳴らない時は>
・電池切れではありませんか？
・電池はきちんとセットされていますか？
上記の確認をしても鳴らない場合は、住警器本体の故障が考えられます。



日頃のお手入れについて
住警器にホコリが付くと火災を感知しにくくなります。汚れが目立ったら、乾いた布でふき取りましょう。

あなたの火災予防
全力で応援

AUTUMN FIRE PREVENTION CAMPAIGN
秋の火災予防運動
11月9日(火)～11月15日(月)
もう一度 確認 安心 火の用心

住宅火災による死者を防ぐために
寝たばこは絶対にしない。ストーブの近くに燃えやすいものを置かない。こんろの火が鍋口や床に流れないように注意

東京消防庁

令和3年秋の火災予防運動ポスター



10年間頑張りました！
さよなら～

点検が大事！

警報器が鳴ったらすぐに確認！
<火災のときは>
● 大声で周りに火災を知らせ、119番通報をしましょう。
● 速やかに避難してください。


<火災ではないときは>
調理中の煙などを感知して警報器が鳴ってしまったときは、本体にある警報停止ボタンを押すか、付属のひもを引いて警報音を止めましょう。再度、鳴動する場合は、室内の換気を行うことで警報音が止まり、正常な状態に戻ります。



古くなった消火器の破裂に注意

経年劣化した消火器を使用した際に、消火器が破裂しケガをする事故が発生しています。変形や損傷、サビがあるような消火器は危険なので触らず、消火器メーカー又は消火器販売店等の専門業者にご相談ください。

不要になった消火器を廃棄する場合は、消火器リサイクル推進センターにお問合せください。
※消防署では、消火器の回収は行っていません。



【消火器リサイクル推進センター】
■TEL.03-5829-6773
■ホームページ <https://www.ferpc.jp/>
■リサイクル窓口検索 <https://www.ferpc.jp/accept/>

ホームぺージ 窓口検索



このような消火器は、点検または廃棄・リサイクルをおすすめします

- 耐用年数を過ぎている消火器
- さびたり、腐食している消火器
- 大きなキズや変形している消火器

詳しくは▶

